



情報科学研究科特別講演会

「個の医療」へ向かう米国医療の動向

日 時 : 平成23年11月21日 (月) 13:30 ~ 15:00

会 場 : 東北大学星陵キャンパス医学部5号館2階 201号室

主 催 : 東北大学大学院情報科学研究科
(応用情報科学専攻 先端情報共有技術論KDDI寄附講座)

共 催 : 東北大学大学院医学系研究科

参加費 : 無料、事前登録不要

◆ 概要 ◆

1990年初頭から米国を中心に始められたヒトゲノム解析計画 (Human Genome Project)は、2003年に終了し、1人の人間の設計図ともいえる全ゲノム配列、約 30 億塩基対を明らかにした。その後、急速な遺伝子解析技術の進展により、遺伝子の解析およびその情報(Bio Information Technology)は、これまでの研究の領域を超えて、臨床への応用に進められるようになってきている。このような新しいBio Information Technology(BIO-IT)学は、この10年間に、米国の医療を大きく変え、さらに、今後、大きく変化しようとしている。本年10月のFDAの声明にも見られるように、米国の医療は、よりPersonalized Medicine (個の医療) にプライオリティーをおくとしている。言い換えれば、個人の遺伝子解析情報をベースにした診断/治療、トランスレーショナル研究/治療を積極的に取り入れてゆこうという姿勢である。本講演では、米国の最先端医療の動向を、特に、以下の2つの観点から解説する。

- (1) Personalized Medicine (個の医療) へ向かう米国医療の動向
- (2) シリコンバレーを中心とするバイオベンチャー/バイオ投資の動向

講師：千田一貴（せんだもとたか）博士

Rainbow BioScience 社社長 前大阪大学特任教授



1954年2月、倉敷市生まれ、在米約25年、日本/米国ロシュ研究所、米国シンテックス研究所、米国バイエル研究所、ベンチャー創業などで主幹研究員やR&Dディレクターを歴任。日米の製薬、バイオ関連企業を科学技術とビジネスの“複合的目利き”によりサポートするRainbowBioScience, LLC社を設立（シリコンバレー、2001年）、同社代表。2005年より大阪大学の特任教授を兼任。2008年に発表した“日本の新産業構造創成の方法論”を基軸とし、日本発のライフサイエンス、バイオテクノロジー産業創成への実践的な活動を発信中。“オープンガーデンパーティシステム”に加え、自然と科学技術の融合による新産業創成の新方法論を展開する。スタンフォード大学との共同研究も進める。岡山大学工学部、薬学部卒業（ダブルメジャー）。大阪大学産業科学研究所で工学博士（生物工学）。